

令和4年度第4回安城市地域ケア推進会議

日時 令和4年9月15日(木)
午後1時30分～午後2時40分
場所 社会福祉会館 3階 会議室

1 会長あいさつ

コロナ第7波はピークを越えたようだが、まだまだ陽性者も出ているので、安心はできない状況。特に病院が大変で、職員自身が罹患したり、濃厚接触になり仕事ができなくなり、入院制限や診療制限が出ている。流行は、人の動きに左右されるので、行動制限や自制が必要であると思う。皆さんも気を付けてほしい。

2 議題

(1) 人生の最終段階にあり心肺蘇生を望まない傷病者への対応について(資料1)

衣浦東部広域連合)

西三河地区メディカルコントロール協議会「人生の最終段階にあり心肺蘇生を望まない心肺蘇生傷病者への救急隊活動要領」の説明

(資料1に沿って説明)

【質疑応答】

薬剤師会部会)

救急隊活動要領は、県内の各エリアで、試しながら作り上げているようであり、また都道府県単位でシステムが違うようなので、国から、まとめて出されているものはないのか?

衣浦東部広域連合)

この取り組みに関して一番良いのは、法整備がなされることだと思う。この問題は、今に始まった話ではなく、10年以上前からある。現状は、法整備が追いついておらず、国は方針を示しただけである。このような状況でも、検討して取り組みを行う必要を感じており、西三河地区メディカルコントロール協議会のように、地区単位で取り組みを事前に決め、その取り決めを検討している。愛知県は、ガイドラインを示しており、各地区で地元寄り添いながら取り決めを決めている。西三河地区メディカルコントロール協議会でも、基本的に愛知県のガイドラインに準じている。他の地区では、医師会等の意見を聞いているところもある。今後も、ご意見を伺いながら必要があれば、変更を加えていきたい。

【意見】

医師会部会)

メディカルコントロール協議会でマニュアルを作っているが、在宅医療に関わる関係者に周知する必要があるので、12月に開催する安心塾で、衣浦東部広域連合さんに来ていただき、研修会を実施する予定なので、参加してほしい。

(2) 在宅医療・介護連携推進のための研修会実施報告(資料2)

医師会部会)

(資料2-1に沿って説明)

グループホーム部会)

(資料2-2に沿って説明)

(3) 各部会紹介 (資料3)

デイネット部会)

(資料3に沿って説明)

【意見】

リハビリネット部会)

デイケアの特性は、要介護高齢者の自立支援の肝になるサービスと考えている。主に、療法士が関わることで身体機能の改善が図れることにある。対象者として、例えばフレイルの方や、若年脳卒中の職業復帰のための心身機能の改善、在院日数の短縮による退院後、回復可能性を見込める方への心身機能を上げていくためのサービスとしての役割がある。もう一つのポイントとして、介護医療のハブ役であると考えている。改善回復が見込みにくい神経難病の方に対して、進行の時期に応じて生活課題が変わっていくなか、医療依存度が高くなってきたタイミングで、訪問看護につなげるなど、医療の視点でアンテナを張ることができるサービスとしての役割もあると考えている。

【質疑応答】

ケアマネット部会)

8月は、デイサービス事業所から、コロナ感染の報告が多くあり、サービス調整に苦慮した。デイサービス事業所として利用者、家族、スタッフが感染者や濃厚接触者になった際に、苦慮した点やデイネットとしての横のつながりで配慮した点があるか。

デイネット部会)

現状は、事業所の独自ルールで、どこまで情報発信するかは、まちまちである。デイネット部会としては、各々の事業所の対応方法の情報を集めることにした。各事業所で、どこまで対応すればよいのかについて、他の事業所の取り組みを聞くことにより、ルール化されていない事業所は、自事業所のルールを定めていけるとよいが、苦慮しているのが現状である。

会長)

感染対策、災害、医療の分野もそうであるが、物事は現場で起きているので、現場での対応がどうしても必要になってくる。ある程度のルール作りは必要であるが、臨機応変に対応することも大切である。

(4) 情報共有

- ・新型コロナウイルスから学んだこと～感染制御、多職種協働、そして意思決定支援～

ACP 作業部会副部長)

医師会長岡本先生からのご依頼で、雑誌掲載記事の紹介。株式会社ともあより出版された、8月15日発行の「訪問リハビリテーション 第12号 第3号」の抜粋。岡本先生が執筆され

た内容で、新型コロナウイルスから学んだこと ～感染制御・多職種協働、そして意思決定支援～と題し、5 ページに渡り掲載。新型コロナ感染症流行禍における自宅療養者への往診での留意点や、人生の最終段階における意思決定支援と情報共有について現状をまとめている。安城市の在宅医療の現状について知って頂くと共に、「わたしノート」の活用についてもご周知をお願いしたい。

【意見】

リハビリネット部会)

訪問看護から、最終段階の看取りの方で、退院後自宅に帰ってから一週間以内に亡くなる方が増えている印象がある。看取りで関わる中で、人生の最終段階における意思決定支援と情報共有について、「わたしノート」を活用しながら、リハ職として多職種と連携できると良い。デイネット部会)

「わたしノート」の活用について、デイサービス利用者に対して説明を行った。興味を示していた利用者もいたが、いざノートの中身を見たら、記載することにためらう状況である。説明をして、活用していけるように伝える難しさを感じた。

- ・新型コロナウイルス感染状況について

病院部会)

病院内での新型コロナウイルス感染状況の説明があった。8月に感染が多く見られたが、現在は、落ち着きつつある状況になっている。(安城更生病院、八千代病院)

連絡事項

- ・在宅医療ガイドブックの見直しについて(提出期限:令和4年9月30日(金)まで)
- ・多職種ワークショップ研修会(病院部会・薬剤師会部会)中止のお知らせ
- ・地域包括ケアフォーラム

日 時 令和4年11月12日(土)午後1時30分～午後3時30分

場 所 へきしんギャラクシープラザ マツバホール

内 容 (1)講演会「意思決定支援と人生会議・わたしノートの活用方法」

講師 杉浦 真氏(安城更生病院 脳神経内科・介護老人保健施設長)

(2)シンポジウム「意思決定支援に関する現状と課題、各職種の立場から」

対 象 医療・介護・福祉に関わる専門職及び民生委員・児童委員、主任児童委員

- ・在宅医療・介護連携推進のための研修会(ケアマネット部会)

日 時 令和4年10月13日(木)午後1時30分～午後3時

方 法 オンライン(ZOOM)

テーマ 感染症・災害時における事業継続計画について

講 師 藤井 健太郎氏(株式会社ACC 代表取締役)

- ・在宅医療・介護連携推進のための研修会(保健福祉部会)

日 時 令和4年10月20日(木)午後6時30分～午後8時30分

場 所 市民会館 大会議室

テーマ ACPを専門職と理解する

講 師 杉浦 真 氏 (安城更生病院 脳神経内科・介護老人保健施設長)
中村 鈴子氏 (地域包括支援センターひがしばた)

・在宅医療・介護連携推進のための研修会 (小規模多機能部会)

日 時 令和4年10月26日 (水) 午後6時30分～午後7時30分

方 法 オンライン (ZOOM)

テーマ 小規模多機能型居宅介護における家族支援について

内 容 各施設からの事例発表

・自立支援サポート会議

日 時 : 令和4年9月22日 (木) 午後2時～ オンライン開催

次回 令和4年10月20日 (木) 午後1時30分～3時 社会福祉会館 会議室